



TITLE:

# 報告と通信

AUTHOR(S):

---

CITATION:

報告と通信. 天界 1927, 7(79): 435-436

ISSUE DATE:

1927-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161151>

RIGHT:

## 報 告 と 通 信

## 甲 南 より

山本先生

劈頭に喜ばしい星圖を掲げて、滿洲に於ける御研究の御成功を御祝申上ます。

「天界」を始めとし、或は科學知識或は科學畫報次で新聞に於てキンネケの來訪を知つた時私の心はごんなに躍つたか知れませんが、父が Halley の巨體を見た話を私に聞かせる時に私はごんなにか羨しがつたことでせう。キンネケを私が見得る幸福を私は持つことが出来るさ考へましたその裏面に於て、日本の六月の氣象は如何に私を脅かし、且つ落膽せしめたか知れませんが、Radio 或は新聞で天氣豫報を知り26日の「曇一時晴」を如何に善意に解したでせう。けれども悲しいかな26日の夜は曇でした。

27日となりました朝起きれば地上は濡れてゐるではありませんか、落膽のドン底に陥つた私は勿論學校へは傘を持つて参りました。翌28日を一縷の望としておましたら何ぞ不思議さ云へば不思議程空はずつかり晴れました。

近所に百瀬醫學博士が望遠鏡を持つて居られると云ふことを聞きましたので、直ぐに電話をかけて「今夜お邪魔に上らせて戴いてよろしいですか」と尋ねましたら快諾をされ、大喜びで父を始めとし弟、妹、義兄と近所の方一人が行くことに定まりました。十時に行く約束が待ち切れずに9時過に出かけました。

口径 2.5 吋位ではないかと私は思ひました。幸に露臺を天文觀測のために作られたものです。Eyepiece は 25 倍 と 50 倍 の二つありました。25 倍の方を付けて待つておりましたが、東の方は霞がかゝつて仲々見えません。待つ時間に土星の觀測をやるのがよいと思ひまして、早速それを實行しました。Ring がよく見えたのは大變嬉しう御座いました。そして色々な事について簡単な説明を致しました。

「見付かつた……………」

その叫は父の口から發せられました。父

は先から8倍の双眼鏡で東の方を探してゐたのです。早速私もその方を注視しましたが、矢張り霞がかゝつて、ぼつきりしませんでした。ちつと見てゐますとどうもそれらしいのです。「古賀恒星圖」に對照して見ましたら丁度赤道に接する位の所で、Equuleus の  $\gamma$  と同  $\alpha$  と、それから問題の星と思はれるものと Aquarius の  $\beta$  とが略等しい間隔を以て且つ略同一直線上に並んでゐるのを見ました。星圖で見ますと星圖の M2 と云ふのがありますが、それではないことが分りました。どうしても此のボツとしたものに違ひないと思ひまして早速其位置を記録しました。どうやら胸ではなくして水瓶の中を運行中だらうと思はれます。百瀬博士は餘程大きな期待を持つてゐられた様ですが、その餘りに稀薄なのに失望してゐられました。けれども私にまつては之れ以上の満足(望めば望めますが)を望もうとは思ひませんでした。

博士も副院長も天文學の事を知らない人なので其處に居た九人の方に多少、色々なことを説明し且つ色々な御質問に對して出來得るだけの御解答を致しました。

こんな場合に知つてゐる限りのことは説明し又御質問に應じます。その一言一句には責任があると思ひます。云ふだけのことは云つてしまつて後になつて今自分の云つたことが疑しうなることが幾度かあります。そんな場合は家へ歸るまで心配で心配でなりませんが、家へ歸つて、すぐに色々な本を見て「あゝよかつた間違ひはなかつた」と云ふ時にそれは如何に私の勉強になるか分りません。そのことは一生忘れません。云ふ一言一句に責任を感じて注意して云ふ時に如何に私にまつて勉強になり、且つ記憶を確實にならしめるか知れませんが。

望遠鏡をはなれるのが如何に悲しかつたか分りませんが、時間も大分立つてゐるので失禮せねばなりません。丁度十一時に失禮しました。そして家へ歸つて早速今日お話ししたことのおさらへ

なして色々の  
本を見ました。

時既に11時  
20分ですが僕  
は寝るには餘  
りにおしい。  
又獨りで見  
るよりも、一  
人でも多く  
の人に seeing  
上げてと思ひ  
まして、直ぐ  
に近所に居る  
姉の所へ行きま

して、寝てゐるのをたゞき起しました。  
此の義兄も亦、先に一緒に觀測に行つた  
義兄に負けず劣らず星好きで「星座の圖」  
を以て空をながめては子供に教へてゐる  
のです。僕がたゞき起しに行くまではキ  
ンネッを探してゐたのださうですが、到  
々探されずに悲觀して寝た所なので、僕  
を大いに歡迎してくれました。姉も起き  
て來ました。二人の喜びさ云つたら今だ  
に其顔が見えます。斯うして11時20分ま  
で見てゐました。(小泉功)

### 慶 州 より

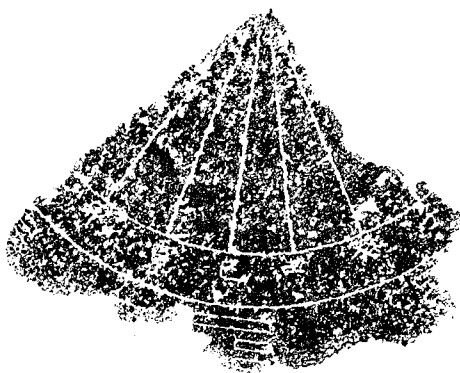
山本一清様

拜啓、小生、今回、慶州博物館内渡理  
文哉氏に、中學在學當時、修學旅行の際  
新羅王朝のお話に預りました緣より、同  
地の新羅時代に於る天文学の事蹟に就き  
御尋ね申上げたる處、氏より御返信有り  
同地唯一なる天文史上の古蹟、瞻星臺の  
寫眞繪葉書、並に日時計斷片(上圖)の紙  
版寫一葉御送付被下しましたので、茲に是  
を敢取す本部の皆様へ御送りします。

そして、重ねて皆様の御手を煩はして  
朝鮮慶州に如斯古蹟あることを會員諸兄  
に御招會被下れるならば、小生の歡びこ  
れに過ぐるもさへ御座居ません。

下に氏の御調査被下しましたことを、氏の  
返信のまゝ寫記致しておきます。但し  
氏のお手紙に依れば、記録その他によつ  
て、専門家以外のものが、知り得るこれ  
が最上であるとのことです。

當地にある瞻星臺は新羅第二十七世、



善徳女王の  
時、(日本、舒  
明天皇四、  
唐、貞觀六)  
に築かれた東  
洋最古の天文  
觀測臺と呼ば  
れ、方形の地  
覆石の上に圓  
筒形に花崗岩  
(全部を積み  
上げ、頂上に  
二重の井桁を  
置き、其中央

南面の方形に窓あり、總高さ二十九尺  
餘、下徑十七尺、頂部の廣さ方八尺五  
寸、石層は二十七段あり。内部は單に一  
の圓筒に過ぎずして何等の設備なし恰も  
地下に堀下げたる井戸を地上に引揚げた  
るが如し。場所は新羅舊王城址、却ち月  
城の西北部小巨離にて現在ある道路に添  
ふてゐる。(5月23日大山督)

### 大 阪 より

山本一清様

おかげにて大略市岡女學校七夕祭記念  
天文幻燈講演を果し申し候。同校では祭  
壇を設け、七夕を飾り、果瓜其他を供へ  
られ、著しき七夕気分を現はされたるは  
嬉しく感ぜられ申候。講話の内容は七夕  
の傳説の大要と天界旅行見物として幻燈  
紹介をなし、多少天界の趣味と了解を進  
め得たかさ信じ申候。大要御報告を兼ね  
て御便宜を與へられたる事を深く感謝申  
上候。(8月12日津田雅之)

### 奉 天 より

荒木俊馬様

御機嫌よろしうございますか。やつと  
奉天まで觀測を終りました。次は熊岳城  
に参ります。今迄の支那語は餘り役にた  
ちません。一度車やのま違ひで附屬  
地外につれてゆかれ日本人は一人も居ず  
支那人は澤山集るで困つたことがあります。  
(秋葉寛次郎)